

1 塩化ナトリウム

2 純度試験(2), (3), (4), (5), (6), (9)及び(11)の項を次のように改める。

4 純度試験

5 (2) 酸又はアルカリ 本品20.0 gを新たに煮沸して冷却した水に溶かし、正確に100 mLとし、試料溶液とする。試料溶液20 mLにプロモチモールブルー・エタノール性水酸化ナトリウム試液0.1 mL及び0.01 mol/L塩酸0.5 mLを加えるとき、液の色は黄色である。また、試料溶液20 mLにプロモチモールブルー試液0.1 mL及び0.01 mol/L水酸化ナトリウム液0.5 mLを加えるとき、液の色は青色である。

12 (3) 硫酸塩 (2)の試料溶液7.5 mLに水を加えて正確に30 mLとし、試料溶液とする。別に硫酸カリウム0.181 gを薄めたエタノール(3→10)に溶かし、正確に500 mLとする。この液5 mLを正確に量り、薄めたエタノール(3→10)を加えて正確に100 mLとする。この液4.5 mLに塩化バリウム二水和物溶液(1→4) 3 mLを加えて振り混ぜ、1分間放置する。この液2.5 mLに試料溶液15 mL及び酢酸(31) 0.5 mLを加えて5分間放置するとき、液の混濁は次の比較液より濃くない。

20 比較液：硫酸カリウム0.181 gを水に溶かし、正確に500 mLとする。この液5 mLを正確に量り、水を加えて正確に100 mLとする。この液を試料溶液の代わりに用いて、同様に操作する。

24 (4) リン酸塩 (2)の試料溶液2.0 mLに水を加えて正確に100 mLとし、これにモリブデン硫酸試液4 mLを加え、振り混ぜた後、塩化スズ(II)・塩酸試液0.1 mLを加え、10分間放置するとき、液の色は次の比較液より濃くない。

28 比較液：リン酸標準液1.0 mLに2 mol/L硫酸試液12.5 mL及び水を加えて正確に250 mLとする。この液100 mLにつき、以下同様に操作する。

31 (5) 臭化物 (2)の試料溶液0.50 mLに水4.0 mL、希フェノールレッド試液2.0 mL及び新たに調製したトルエンシルホンクロロアミドナトリウム三水和物溶液(1→10000) 1.0 mLを加え、直ちに混和する。2分間放置後、0.1 mol/Lチオ硫酸ナトリウム液0.15 mLを加え、混和した後、水を加えて正確に10 mLとし、試料溶液とする。別に臭化カリウム溶液(3→1000000) 5.0 mLをとり、希フェノールレッド試液2.0 mL及びトルエンシルホンクロロアミドナトリウム三水和物溶液(1→10000) 1.0 mLを加え、直ちに混和する。以下試料溶液の調製と同様に操作し、標準溶液とする。これらの液につき、水を対照とし、紫外可視吸光度測定法(2.24)により試験を行うとき、波長590 nmにおける試料溶液の吸光度は、標準溶液の吸光度より大きくない。

44 (6) ヨウ化物 本品5 gに新たに調製した溶性デンプン試液/0.5 mol/L硫酸試液/亜硝酸ナトリウム試液混液(1000:40:3)を滴加して潤し、5分間放置し、観察するとき、青色を呈しない。

48 (9) 鉄 (2)の試料溶液10 mLにクエン酸一水和物溶液(1→5) 2 mL及びメルカプト酢酸0.1 mLを加え、アンモニア溶液でアルカリ性とした後、水を加えて正確に20 mLとする。5分間放置するとき、液の色は次の比較液より濃くない。

52 比較液：鉄標準液1 mLを正確に量り、水を加えて正確に

53 25 mLとする。この液10 mLにクエン酸一水和物溶液(1→5) 2 mL及びメルカプト酢酸0.1 mLを加え、以下同様に操作する。

56 (11) マグネシウム及びアルカリ土類金属 水200 mLに塩化ヒドロキシルアンモニウム0.1 g、pH 10の塩化アンモニウム緩衝液10 mL、0.1 mol/L硫酸亜鉛液1 mL及びエリオクロムブラックT・塩化ナトリウム指示薬0.15 gを加え、40 °Cに加温する。この液に0.01 mol/Lエチレンジアミン四酢酸二水素二ナトリウム液を液の紫色が青色になるまで滴加する。この液に本品10.0 gを水100 mLに溶かした液及び0.01 mol/Lエチレンジアミン四酢酸二水素二ナトリウム液2.5 mLを加えるとき、液の色は青色である。

66 9.41 試薬・試液の項に次を追加する。

67 モリブデン硫酸試液 七モリブデン酸六アンモニウム四水和物2.5 gを水20 mLに加熱して溶かす。この液に硫酸28 mLを水50 mLに注意して加え、冷却した液を混合し、水を加えて100 mLとする。ポリエチレン容器に保存する。

71